

定期的に行われる、海老江地区のふれあいサロンで販売させて頂き、一緒に食事をするなどして地域の方との交流も重ねました。海老江地区での取り組みをきっかけに区内で行われている他のサロンでも購入依頼があり、福島育成園での取り組みの認知度が高まっています。

また、利用者の希望に少しでも近づけるような取り組みとして、29年度も継続してエアロビクス、書道、クラフト、陶芸、健音体操などのクラブ活動を月に1回実施し参加する機会を提供しました。

一方、施設入所支援では、安心安全に過ごすことができるよう、入浴、食事、排泄、着替えなどの日常生活が快適に過ごせるように支援をする一方で、栄養ケア計画を作成し健康管理に配慮した食事の提供を行うなど、個々に対応する支援をしました。

さらには、入浴時や食事中に重大な事故が発生しないよう、緊急に対応ができるように浴室内と脱衣所、フロアに支援員の配置を徹底し、職員は救急救命講習の受講をしました。

これらに加え、65歳以上また、高齢化に伴う身体・認知機能の低下が見られる利用者に対し介護認定調査を導入して、今後の生活のあり方等を家族の方と話し合いをしました。

給食提供については、毎日の食事が楽しくなるような雰囲気づくりを行い、季節を感じるができるような食事の内容に努めました。また、利用者一人ひとりに栄養ケア計画を作成し、その日の体調などにも配慮し、食事内容の変更等、機に応じて栄養管理について、嘱託医や看護師、栄養士らと協力しながら、体調や疾患に対応した食事の提供をしました。

地域に対するアプローチとしては、積極的に連携を図り、社会貢献にも取り組みました。地域のサロンや盆踊り・運動会などの地域行事に利用者と共に参加し、地域の皆さまとの交流を図りました。地域における社会資源として地域の方との交流を深め、理解と協力を得られるように努めました。また、年末防災活動の拠点として施設を利用していただきました。

【ビーンズ】

ビーンズでは利用者16名に対し、福島区内の3住居でグループホームの事業を行っています。

利用者本人が安心して心豊かに過ごせるように、生活支援員・世話人を始め、区障がい者相談支援センターとの連携も図りながら、個々の利用者に応じた支援を行いました。そして、高齢となった利用者に対して

はグループホーム内の段差の解消、階段の滑り止めや手すりの設置等、安全に生活が送れるよう住環境を整えました。

平成29年度 決算について

6ページに記載の資金収支計算書を用いて決算状況について解説します。

29年度では、法人全体としては「事業活動による収支」の「収入の部」の合計である「事業活動収入計(1)」は、約9億787万円となり、「支出の部」の合計である「事業活動支出計(2)」は約9億1,439万円となり、収入と支出の差を表している「事業活動資金収支差額(3)」では、約653万円の支出超過となりました。平成29年度も施設整備等積立金を取り崩して大規模な施設改修工事を実施しており、港育成園・港第二育成園で工事費総額の約4,800万円のうち、約2,800万円が臨時的な支出であります。会計処理上で経常的な経費科目の事務費支出となっているため、事業活動支出に含まれております。

なお、この大規模修繕にかかる事務費の約2,800万円を通常の事業活動支出に含まないものと考えた場合、実質的な事業活動資金収支差額は、約2,150万円の黒字であったこととなります。

次に「施設整備等による収支」の「施設整備等資金収支差額(6)」では約3,762万円の支出超過に、「その他の活動による収支」の「その他の活動資金収支差額(9)」では約4,337万円の支出超過となりました。

最終的に「当期資金収支差額合計(11)」は約78万円の支出超過となりました。当年度収支が赤字となった理由ですが、各施設の施設運営などの社会福祉事業では約714万円の黒字を予定していましたが、将来に備えた「施設整備等積立金支出」に同額を計上したため収支差額は0円となり、公益事業の約78万円の支出超過のみ計上しております。公益事業には、育成会会員事業が含まれており、平成29年度は当法人が近畿大会の主催であったことで、通常よりも会場費などの経費が大きくかかったことが理由に挙げられます。

今後は、中長期的な経営計画を策定とともに、あらゆる収入増加策や支出削減策を検討し、役職員一丸となって健全な法人運営を目指してまいります。